

【いじめ未然防止】

○生徒や学級の様子を把握

共感を基本にした生徒と教師の信頼関係

生徒と共感する姿勢を大切にする。

生徒を見守る体制整備

登下校時のあいさつ運動や休み時間などに生徒と時間を共有し、生徒を見守る環境を整える。

保護者との連携

電話連絡、家庭訪問や保護者会の実施。日頃から生徒の様子や学校の様子を伝え、保護者の協力体制を確立する。

○生徒が互いに認め合い、支え合い、助け合う仲間づくりの土壌作り

互いに認め合い、支え合い、助け合う学級作り

教師は生徒にとってよきモデルとなり、信頼される存在になるため、高い規範意識をもって生徒と接していく。生徒が安心して過ごせる環境を整備する。

教職員の協力体制

教職員が協力しやすい職場環境の整備。多くの教師で生徒を見守る。

生徒の自尊感情を高める教育活動

生徒の自己肯定感を高める温かな声掛けにつながるよう、教職員の各種研修を積極的に実施する。

○生徒のモラルを高める教育活動

道徳の授業やライフスキル教育、人権教育の充実

人間としての在り方や生き方に関する思考を育むとともに、自ら正しいと判断した行動が取れる態度を身につける。

体験学習

体験学習の中で自己や他者と向き合い、豊かな心を育成する。

いじめは犯罪であると生徒に認識させる取組

「いじめは犯罪である」ということを掲示物や呼びかけを通して伝え、生徒にいじめを起こさない意識を醸成する。

○保護者や地域への発信

情報の発信

適時家庭訪問や家庭連絡、保護者会などを通して保護者との連携を深める。また、各種便り（学校長便り、学年通信、生徒指導通信、学級通信等）を通して、保護者に学校の指導方針を理解してもらうことで学校と家庭教育の連携の充実を図る。

各種会合への参加

地域行事や会合、PTA 役員会、学校評議員会、地域愛護育成会等の各種行事・会合への参加を通して、地域・家庭との連携を強化する。

<いじめが起こりやすい、実際に起こっている集団>

- 朝いつも誰かの机が曲がっている
- 朝職員がいないと掃除がきちんとできない
- 掲示物が破れていたり落書きがあつたりする
- グループ分けをすると特定の生徒が残る
- 特定の生徒に気を遣っている雰囲気がある
- 些細なことで冷やかしたりするグループがある
- 学級やグループの中で絶えず周りの顔色をうかがう子どもがいる
- 自分たちのグループだけでまとまり、他を寄せつけない雰囲気がある
- 授業中、教職員に見えないようにいたづらをしている

<いじめられている生徒>

◎日常の行動・表情の様子

- わざとらしくはしゃいでいる
- 周囲がなんとなくざわついている
- 活気はなくおどおどし、話す時不安な表情をする
- 発言を強要され、突然個人名が出される
- 周囲の行動を気にし、目立たないようにする
- 下を向いて視線を合わせようとしない
- 顔色が悪く、元気がなく暗い表情になる
- 早退や一人で下校することが増える
- 遅刻・欠席が多くなる
- 腹痛など体調不良を訴えて保健室へ行きたがる
- にやにや、にたにたしている
- 悪口を言われても言い返さず、愛想笑いをする
- ときどき涙ぐんでいる

◎授業中・休み時間

- 発言すると友だちから冷やかされる
- 班編成の時に孤立しがちである
- 学習意欲が減退し、忘れ物が増える
- 決められた座席と違う場所に座っている
- 一人でいることが多い
- 教室へいつも遅れて入ってくる
- 教職員の近くにいたがる
- ひどいあだ名で呼ばれる
- 遊びだと友人とふざけているが表情がさえない
- 不まじめな態度でふざけた質問をする

◎昼食時

- 好きな物を他の生徒にあげる
- 食事の量が減ったり、食べなかったりする
- 弁当を一人離れて食べることが多い
- 他の生徒の机から机を少し離している
- 食べ物にいたづらされる
- 昼食時になると教室から出て行く

◎清掃時

- いつも雑巾がけやごみ捨ての当番になっている
- 1人で離れて掃除をしている
- 目の前にゴミを捨てられる
- 掃除をさぼることが多くなる

◎その他

- トイレなどに個人を中傷する落書きをされる
- 持ち物や机に落書きをされる
- 持ち物が壊されたり、隠されたりする
- 理由もなく成績が突然下がる
- 部活動を休むことが多くなり、やめると言い出す
- 衣服が汚れたり髪が乱れたりしている
- ボタンがとれたり、ポケットが破れたりしている
- 顔や手足にすり傷やあざがある
- けがの状況と本人が言う理由が一致しない
- 必要以上のお金を持ち、友だちにおごる

<いじめられている生徒>

- 多くのストレスを抱えている
- あからさまに、教職員の機嫌をとる
- 教職員によって態度を変える
- グループで行動し、他の子どもに指示を出す
- 活発に活動するが他の生徒にきつい言葉をつかう
- 教師が近づくと急に仲の良いふりをする
- 悪者扱いされていると思い、ムキになる
- 特定の生徒にのみ強い仲間意識をもつ
- 教職員の指導を素直に受け取れない
- 他の子どもに対して威嚇する表情をする
- 教師が近づくと集団が不自然に分散する

【いじめの早期発見】

○教職員の気づきを増やすために

全教職員がいじめに対する共通認識を持つ

いじめはどこでも起こる可能性があり、担任や該当教師のみで対応するのではなく全教職員で取り組むべき事案であるという共通認識を持つ。

生徒と時間を共有する機会を増やす

授業外（休み時間や放課後等）の生徒観察、生活ノートでのやりとりから生徒と教師が時間を共有し、生徒の変化を見逃さない環境を整える。

教職員の教師としての指導力をアップ

カウンセリングマインド研修等、各種研修へ積極的に参加する。校内研修を随時実施し、特に若手教員の指導力向上を目指す。

アンケート・教育相談の実施

学期1回以上のアンケートを実施し、実情に沿った教育相談を実施する。事実を報告しやすいアンケートにするため、内容は適宜見直す。

スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）との連携

校内の生徒指導委員会・不登校委員会・特別支援委員会等各種委員会に、SC、SSWも出席し、教職員間の情報共有に努める。

○いじめ発見のきっかけについて理解する

学校がいじめを認知する方法

被害生徒の訴え、第3者生徒の訴え、保護者からの連絡、担任教員による気づき、担任外教員による気づき等があり、中学校では担任外教員の気づきがいじめ認知のきっかけになることも多い。

生徒や保護者が訴えやすい環境整備

被害を受けている生徒や事実を訴えた生徒を教員は全力で守るという安心感を日々の教育活動の中で徹底する。

○多くの人に関わる学校づくりを推進する

いじめは見えないところで起こる

関わる人を増やすことで目を増やし、いじめを起こりにくくする。

地域の協力を得る

登下校の様子、町内行事での様子を見てもらう大人の目を増やす。

○ネットいじめへの対応

ネットモラルを身に付けさせる活動・呼びかけ

年に1回ネットモラル教育を実施し、生徒のネットモラルを養う。また、継続的に、デジタル教材等を用いて、ネットモラルの啓発に努める。保護者に向けても啓発資料を配布し、学校と家庭の連携を図る。

保護者の協力が不可欠

保護者に定期的な生徒のネット使用の点検を依頼する。

神南中学校 いじめアンケート

() 年 () 組 氏名

今学期 (今年の4月から) の出来事について教えてください。

Q. 学校は楽しいですか?

とても楽しい ・ まあまあ楽しい ・ あまり楽しくない ・ 楽しくない

Q. 何か困ったことはありますか?

はい ・ いいえ

アンケート実施後、全員分の回答用紙は卒業+1年保存、回答を取りまとめた用紙は5年間保存します。

Q. いやなことやいじわるをされましたか?

はい ・ いいえ

担任 ⇒ 学年代表 ⇒ 生徒指導担当
⇒ 管理職に報告後、保管

* 「はい」と答えた人に質問です。どのようなことをされましたか?

() 冷やかしゃからかい、悪口や脅し文句、いやなことを言われる。

() 仲間はずれ、集団による無視をされる。

() 軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする。

() ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする。

() 金品をたかられる。

() 金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする。

() 嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする。

() パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる。

() その他 具体的に ())

Q. 誰かがいじわるをされたり、いやな思いをしたりしているのを見た (聞いた) ことがありますか。

はい ・ いいえ

○ 人が嫌がる行為にはどのようなものがあると思いますか? (全員記入)